

さぬき市在宅医療・介護連携推進協議会 令和5年度第1回会議 会議要旨（要約）

- 1 日 時 令和5年7月20日（木） 18：30～20：00
- 2 場 所 さぬき市寒川庁舎 301・302会議室
- 3 出席者〔委員〕11名
南 篤・為國真理・宮本明子・宇山真奈美・防越一美・穴田美知子・
谷風恭子・神前政季・都築昌悟・清原真規子・辻よしみ（欠席者：
植村麻里・白井邦佳）
〔委員外〕木田恵美子（大川地区医師会在宅医療介護連携支援センター相談員）
〔事務局〕真部哲男・伊藤英樹・藤田宏江
〔傍 聴〕なし
- 4 議 題 （1）令和4年度在宅医療・介護連携推進事業の事業報告について
（2）令和5年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について
（3）「看取り」場面の意見交換
- 5 会議の内容は次のとおりである。

発言者	意見概要
(事務局)	<p>(開会)</p> <p>本協議会は、地域の医療・介護関係者等に参画いただき、在宅医療と介護連携の課題の対応策について検討することを目的として設置している。開会にあたり、南会長に挨拶をお願いします。</p> <p>(会長挨拶)</p>
(事務局)	<p>(新委員の紹介)</p> <p>香川県看護協会の役職変更より、前委員の退任に伴い、同団体から宮本委員の推薦があり、6月9日より新委員に就任いただいた。宮本委員に自己紹介をお願いします。</p> <p>(宮本委員自己紹介)</p>
(事務局)	<p>会長がこの会議の議長となるため、議事の進行は南会長をお願いします。</p> <p>(議事進行)</p>
(議長)	<p>議題(1) 令和4年度在宅医療・介護連携推進事業の事業報告について、議題(2) 令和5年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について、事務局から説明を求める。</p> <p>(事務局説明 議題(1) 令和4年度在宅医療・介護連携推進事業の事業報告について、議題(2) 令和5年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について、資料の1、11ページより、対応策の評価・改善、事業計画を中心に説明する。当協議会に、医療・介護関係者の研修(市独自研修)の計画案作成等を行う研修部会(準備会)の設置について、実施要領より説明し、設置の確認を行う。)</p> <p>(相談員説明 議題(2) 令和5年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について、資料の7ページより、住民を対象にした講演会について、支援センターのホームページを活用した情報発信について、追加説明を行う。)</p>

(議 長)	<p>意見や質問があればお願いします。 ないようであれば次に進める。</p>
(議 長)	<p>議題（3）「看取り」場面の意見交換について、事務局から説明を求める。</p> <p>（事務局説明 「看取り」場面について、意見交換の目的、進行（事例紹介、各グループ（1・2グループ）での意見交換、発表）の説明を行う。）</p> <p>（看取り事例の紹介 委員2名から事例の紹介を行う。）</p> <p>（事務局説明 意見交換のテーマは、「自分の思う看取り」「各職種・団体ができること、あればよいサポートや体制」「目指す姿」。記録は、シートにキーワードの記載で可。グループの意見は、発表で共有する。）</p> <p>（各グループでの意見交換）</p> <p>（発表）</p>
(委 員)	<p>自分の思う看取りについて話し合いを行った。看取りの大前提は、意思の確認、尊重にあるが、最低限の介護がないと成り立たない。</p> <p>歯科医からは、最後の顔のづくりも大事だと教わり、大事にしているとの話もあった。</p> <p>事例にあった若い人は、プライバシーを求める方も多く、羞恥心への配慮や、関わり過ぎずスマートな対応がよいのとの意見があった。</p> <p>入所施設では、家族は施設での看取りを希望し、本人は家で死にたいという方が多く、ギャップは大きい。本人の意向に沿う形で支援したくても、家族の協力がなく成り立たず、最後は家族の意向が優先されている現状がある。</p> <p>事例では、制度外の栄養士の訪問、支援があった。顔の見える多様な業種と関係をつくり、必要なときに、相談や動いてもらえる関係づくりが大事であった。</p> <p>本人、家族の後悔がないようにはもちろんであるが、ケアマネなど支援者も後悔がないように最後が迎えられるようにすることが大事ではないかとの意見もあった。</p> <p>その人らしい最後が迎えられるよう、医療的な改善が見込めない状況にある場合は、その人が希望することを叶えてあげること、お酒を飲みたい、たばこを吸いたい、最後に餅を食べた事例の話もあった。その人らしく、</p>

	<p>その人が希望する最後が迎えられるように、多職種で、この人に頼めば何とかなる「さぬき看取り隊」としてみたが、色んな職種がチームワークで相談し合える関係づくりが必要。専門職同士がつながり、最後の看取りで何ができるか、小さい協議体などをつくり、関係づくりができればよいとの意見があった。</p> <p>(委員) 本人が在宅で死にたいと思っても家族の意思が大きいことや、介護が長期化すると介護負担も大きくなる。在宅だけが看取りと捉えず、施設看取り、病院看取りであっても、その人がどこで最後を迎えたいか、本人の意思を尊重し、ここで最後を迎えたいという想いをサポートしていくこと、関わりの中で、本人の想いを導き出せればよいのでは。看取りまでの生活の質、自分が最後まで生きられたと思えることが大事なのではないかとの話があった。</p> <p>その人が言語化できる人であれば、したいことなどを聴いて、多職種連携を取っていく。言語化できない人も多職種が関わる中で、気持ちを汲み取ることも必要になってくるとの話があった。</p> <p>若い方の事例では、プライバシーや、経済的なところ、関わりを求めているなど関わりにくい方もいるが、細くても関わっていくことが大切ではないか。多職種で関わることでタイムリーな支援につながればよいとの意見があった。</p> <p>在宅看取りでよく経験するのが苦痛、ガン末期などの疼痛コントロールも大事なるとの話があった。</p>
(委員)	<p>(総評)</p> <p>看取りに関して、皆さんがそれぞれに熱い想いをもち、現場でジレンマもありながらも、家族、関係者と真剣に取り組んできたことがよくわかった。今後もこのテーマは続いていくと思う。本人の考え方、家族も色々であるが、皆さんの熱い想いを大切にしたい。</p>
(委員)	<p>在宅の専門ではないが、皆さんの話を聞いて、もっとうなればよい、こうしたらよいが見えてきた。発表の中で、対象者と専門職が細くてもつながっていた方がよいとあったが、細いつながりのその下には、いっぱい紐がついて色んな人につながっていればよいのだと思った。いっぱい広がっている人たちが、何らかの形でつながっているという地域の関係性が今後のさぬき市でできれば素敵だと思った。皆さんが今日話す中で、目指す姿がニュアンスとして出てきたので、計画に活かせる形でつなげていけれ</p>

	ばよいと思った。
(事務局)	今回、たくさんの想いや意見をいただいたので、目指す姿や事業に活かしていきたい。研修にも活かしていきたいと思う。皆さんの熱い想いというのは、現場でも行われていて、関係づくりもしていると思う。その関係性が上手くつながっていくように取り組んでいければと思う。
(議長)	他に意見はないか。
(事務局)	今回、案内文章に、多職種が参加できる研修の紹介を依頼し、為國委員より研修の紹介をいただいた。
(委員)	香川県歯科医師会主催「お口の健康からはじめる健康長寿－歯周病と認知症のかかわり－」の講座を紹介する。
(議長)	以上で本日の議事を終了する。
	(閉会)
(事務局)	協議いただきありがとうございました。この内容は、大川地区医師会、東かがわ市と連携しながら今後の事業運営に取り入れていきたいと思う。 次回協議会は、2月頃を予定しているので参加をお願いしたい。 以上で、令和5年度 第1回さぬき市在宅医療・介護連携推進協議会を終了する。